

平成 28 年度 シラバス

1	名 称	Fukushima Ambassadors Program+ 福島市の学生と世界の留学生が英語で共に学ぶ福島の未来			
2	計 画 者	所属	福島大学 経済経営学類	職名	助教
		氏名	マクマイケル ウィリアム		
3	協力する教員	所属	会津大学 グローバル推進本部 国際戦略室	職名	准教授
		氏名	川口 立喜		
4	対象となる学生	学 年	制限なし		
		専攻分野等	制限なし		
5	目的とねらい	福島大学の海外協定校から留学生を約 2 週間の短期プログラムに招聘し、本県の学生との協働学習を通じて、被災地福島の直面する諸課題について理解を深める機会を提供するものである。本科目のねらいは「3.11 の被災地福島の復興」について参加学生が世界規模で物事をとらえる力を身に付けることであり、ひいては本事業「強い人材」における「情報受信発信力」の獲得のほかに、地域における「課題発見力」を獲得することが出来る。			
6	具体的な計画	実施時期	内 容		
		7 月 3 1 日～8 月 1 0 日	トルコ、アメリカ、ドイツなどから留学生 2 0 名を招き、2 週間の短期留学プログラムを実施		
		平成 2 9 年 1 月 中旬	アメリカ、ドイツ、オーストラリア、中国などから 1 0 名の留学生を招き、2 週間の短期留学プログラムを実施		
7	内容と期待される学修成果		内 容	期待される学修成果	Step
		基本的な姿勢	地域人材の意見を英語に翻訳した講義、被災地の視察、外国人留学生とのグループワークを行う	① 異なる文化との協調・協働力 ② 物事を多角的・多面的に考察する力 ③ 自身の考えを、行動に移せる力を育むことを目指す。	4
		課題探究力	最終日に留学生とのグループワークを終日行い、2 週間のプログラムの中で学んだことの振り返りを行う	地域や学内外での対外的な共同活動（グループワークなど）の中で発見した様々な疑問点を教員に提示することができるようになる。	3
		課題解決力	警戒解除準備区域や被災地、仮設住宅でのボランティア活動を行うことで、PBL 学習を行う	地域や学内外の現場において、具体的な成果を実現するための活動に自らの目的を有し、自発的に取り組むことができるようになる。	4
		情報受信力 情報発信力	最終日に、プログラム後自分たちができる情報発信方法などについて各自発表をさせる	学内外の自らとは年齢や背景が異なる人々に対して地域や学内外における活動を通じて気がついた発見や現場の課題を説明することができるようになる。	4
		つなぐ力 導く力	留学生、日本人学生が共に協働し、被災者、科学者、政府関係者、NPO 団体代表など、様々な「異文化」同士と意見を述べ合い交流する	自ら課題と目標を設定し、複数の他者を共同活動に巻き込み、課題を解決したり目標を達成することができるようになる。	4

	<p>目指す 学修成果</p>	<p>A radar chart with seven axes representing learning outcomes. The axes are labeled: 基本的な姿勢 (Basic Attitude), 課題探求力 (Problem Exploration Ability), 課題解決力 (Problem Solving Ability), 情報受信力 (Information Reception Ability), 情報発信力 (Information Dissemination Ability), つなぐ力 (Connecting Ability), and 導く力 (Guiding Ability). The scale ranges from 0 to 6. The data points are approximately: 基本的な姿勢 (4.5), 課題探求力 (3.5), 課題解決力 (3.5), 情報受信力 (3.5), 情報発信力 (3.5), つなぐ力 (3.5), and 導く力 (3.5).</p>
8	関連する科目	